



ギター弾き語り、始めました

まだ、ここで働く前の話である。

2009年、リーマンショックの頃、アコースティックギターを買った。買った当初は、教本で練習を始めた。しかし、初心者がぶつかる「Fコードの壁」で、あっけなく挫折した。それ以降、触れることもなかったが、いつか時間があったら練習して弾けるようになりたいと思っていた。



2020年3月、突如、新型コロナウイルス感染症のオーバーシュート回避措置が決まった。ステイホーム、不要不急の外出の自粛、3密回避、テレワーク、学校の休校、図書館などの公共施設の休館、書店や遊興施設等の休業等で、巣ごもり生活を余儀なくされた。

読書とカラオケが趣味の私は、本を借りることも買うこともできなくなり、やる事が無くなってしまった。何をして過ごそうかと家の中を見回した時、ギターが目にとまった。

ギターをケースから出してみると、ホコリがたまっていた。チューナーは乾電池の液漏れで壊れていた。ギターのホコリを払い、チューニングは、スマホのアプリをいれて行うことにした。楽譜は、インターネットで見ることができ、初心者向けコードもあったので、「Fコードの壁」を乗り越えることができた。加えて、福山雅治のギターYouTube動画でモチベーションを保つこともできた。目標は、テレビCMで流れるあいみよんの「ハルノヒ」という曲を弾けるようになることと決めた。

毎日毎日、ギターをつま弾いて歌った。

しばらく練習していたら、弦が錆びていることに気づいた。楽器店で新しい弦に張り替えたもらった。音がきらびやかになり、ますますギターを弾くのが楽しくなっている。

～ギターが登場する本の紹介～



「マチネの終わりに」 平野啓一郎

ギタリストが主人公の大人の恋愛小説。ギターのアコースティックな音色を思い浮かべながら読むと、更にせつなさが漂う。コミックス化、映画化もされている。 請求記号 913.6/0900(日進所蔵)

学内相互利用サービスで取り寄せできます



(コミックスの所蔵はありません)



「1995年のスモーク・オン・ザ・ウォーター」 五十嵐貴久

ギター未経験の主婦がバンドを始める物語。ギター初心者には、弦を押さえる側の手首や指先の痛みを経験することがわかる。 請求記号 913.6/435(楠元所蔵)

(ギターが上手になりたい司書)